

# NEWS LETTER

第3号 国際理解部発行 2016/7/22



## 各コースのESD講演会を終えて

### 理数コース

日時：6月30日（木）5・6校時「インターネットの仕組み」（国際講義室）  
講師：東北学院大学工学部電気情報工学科 林 優一先生



通信に関する歴史的な背景から、我々の利用するネット環境が整備されるまでを分かりやすく解説していただきました。インターネット環境の整備に携わった数々の開発者たちのほとんどが若きアメリカ人たちでした。インターネットを取り巻く環境は日々、変化しているの、皆さんの柔軟性のある感性をまだまだ生かせる分野であることを先生は強調していました。インターネットと安全に付き合い、新たな可能性が皆さんから拓かれることを期待したいと思います。

- 回線は1本でつながっているのではなく、多くの回線につながっていることが分かりました。検索のシステムを作るのに多くの人の工夫がされていてすごいと思った。（1年男子）
- インターネットの構造がすごく複雑で、今の形態になるまでにいろいろな人の努力や労力があつたことが分かった。IP アドレスというのは以前から聞いたことがあつたが TCP については初めてでした。こんな重要な役割をしているものを今まで知らなかった事が恥ずかしく思いました。先生のお話が分かりやすく、内容をよく理解できました。（1年女子）
- インターネットの始まりが1957年。それからわずか50年程度でここまでハイレベルに発展したことに関心しました。90年代からは次の発見までのスパンが短くとても驚きました。今まで考えたことがなかった内容でとても面白かった。ありがとうございました。（2年女子）
- インターネットの世界では経験が豊富な人ではなく、若者が開発の分野で活躍してきたことを知って驚きました。進化し続けるITに伴う問題を解決していく必要があると思いました。（2年男子）

### 国際コース

日時：7月4日（月）5・6校時「アフリカンドラム演奏」（体育館）  
講師：ドラムカフェ

ひとり一人に太鼓（ジャンベ）が手渡され、演奏者の皆さんたちと一緒に音楽を楽しむ時間となりました。演奏に参加することで様々な発見があつたはずですが、やはり音楽やダンスは理屈なしで楽しいものです。普段は言葉によってコミュニケーションを成立させていますが、楽器演奏でも意思疎通が出来ること、文化の違いを超えたコミュニケーションの存在があることを体験できました。



- ドラムを使った講演会はとても楽しかったです。音楽が好きなのでアフリカの伝統的な音楽に触れることが出来て良かったです。教えてくれるアーティストの方々もとてもノリが良くて、国際コースの一人としてこのような方々とふれあうことは大切だと思いました。
- 単にジャンベという楽器を体験できただけでなく演奏を通して積極性の大切さを改めて実感した。（2年女子）
- 日本の雰囲気とは全く違う音楽を学ぶことが出来て勉強になりました。（2年女子）
- 単純な楽器ですが、みんなで演奏することで一体感が生まれとても楽しかった。（1年男子）

### 人文コース

日時：7月12日（火）5・6校時「難民問題」（体育館）  
講師：AAR Japan「難民を助ける会」プログラスマネージャー 穂積 武寛氏



近年、ヨーロッパを中心に大きな問題になっている難民問題ですが、かつては東南アジアの難民が日本でも大きな問題となっていました。やむを得ず国境を超えなければならない状況とは無縁な我々ですが、シリアの情勢を中心とした講演を通して難民問題を身近に感じることができました。自国の平和だけを考えていれば良い時代ではないグローバル時代において我々にもできることを知り、行動する必要性を再認識できました。

- 今回の講演の内容を周囲の人に話すだけでも支援につながると分かった。（2年男子）
- 今回の講演を聴いて私に出来ることは何かを考えました。他の方々が行っているような募金活動や書き損じはがきの寄付など小さな事から始めていこうと思いました。（2年女子）
- 一口に難民と言っても程度が様々あって、お金持ちでも難民であったり、住む場所すら確保できない厳しい難民がいることが分かった。難民の方々の役に立つために何が出来るかを考えたい。（2年男子）
- 難民問題は改善できておらず、むしろ深刻になっている事が分かった。AAR Japanの活躍が素晴らしいと思いました。（1年女子）

## 「届けよう、服のチカラ」プロジェクト出張授業

日時：7月14日（木）放課後（人文講義室）  
講師：ユニクロ仙台泉店 店長 村上 和広氏

国際交流委員会と有志参加の生徒が約60名参加しました。ユニクロは服を必要としている人たちのことを想う企業とのことでした。本校も難民生活を余儀なくされている子供たちに服を届け、笑顔を届けるプロジェクトに参加します。今後、プロジェクトリーダーを決め、皆さんの協力を広く呼び掛け、ご家庭で眠っている服の回収をします。詳細は追って連絡しますので皆さんのご協力をお願いいたします。

